

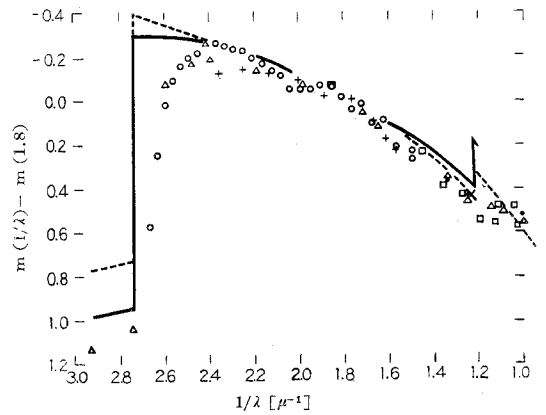
◇ 9 月の天文暦 ◇

日時	記	事
1	210 日	
2 11	月 最近	
2 16	水星 内合	
2 22	水星月の 1° 南	
6 14	朔	
7 24	白露 (太陽黄経 165°)	
14 6	上 弦	
14 16	月 最遠	
15 8	木星 留	
18 21	水星西方最大離角 (18°)	
20	彼岸	
22 3	望	
23 9	秋分 (太陽黄経 180°)	
27 14	月 最近	
29 0	下 弦	

ヴェガ

夏の夜空の織女の名を知らない人は少ないだろう。冬のシリウスとともに、その明るさの故に、古来親しまれてきた。恒星天文学の初期の業績として、F.W. ストローヴェが、この星を用いて、年周視差を発見したのは、1839 年である。

連星系でないために、質量の測定のようなことは望めなかったが、北天にある最も明るい星として観測の便があり、多くの研究の対象となった。特に星の連続スペクトルに関係した仕事では、A0 型を原点にとる慣習があり、A0 の主系列星であるヴェガが、しばしば測光の標準に使われる。太陽を除く星の連続スペクトルとしては、おそらくもっとも精度が高い観測である。



○ キーンレ; □ ウィリアムズ, ホール; + ウィリアムズ; ● ウィットフォード, コード; △ コード. — フンガー-Te=9500°, log g=4.3; --- メルボーン Te=11000°, log g=4.85.

図は今までに成された主な観測とモデル大気をくらべたものである。観測は古いものは写真で、新しいものは光電受光器でというのが、大体の傾向である。これらはすべて連続スペクトルの色を、絶対尺度で測るため、黒体との比較を行っている。近似黒体の実現や大気減光の取り扱いなどの点で、難しい問題が多くある。

フンガーは線スペクトルも詳しく解析していくつかのモデルのなかから、上図のモデルを採用した。メルボーンは主として、長波長域での観測によく合うモデルを採用した。図で 1/λ が 2.4 から 2.7 位で、観測とモデルの差の大きいところは、バルマー系列線の重なりによるものである。そのほか、吸収線の影響はもちろん現われている。どちらのモデルも、水素の連続吸収端での飛躍は、十分に表わしていない。とにかくもっともよい精度の値が得られるとおもわれ、かつ得られているとおもわれる A0 星にして、なお 1500 度位も有効温度が不定になっているのである。

東京における日出入および南中 (中央標準時)

IX月	夜明		日出		方位	南中		高度	日入		日暮	
	時	分	時	分		時	分		時	分	時	分
1	4	39	5	13	+10°8'	11	41	62°7'	19	9	18	42
10	4	47	5	19	+ 6.2	11	38	59.5	17	56	18	29
20	4	55	5	27	+ 2.0	11	24	55.5	14	42	18	14
30	5	3	5	35	- 2.7	11	31	51.6	17	27	17	59

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出, 右側は日入に対する値)

分	分	分	分
鹿兒島 +39	+36	鳥 取 +23	+23
福 岡 +39	+37	大 阪 +17	+17
広 島 +30	+29	名 古 屋 +11	+12
高 知 +26	+24	新 潟 + 2	+ 4
		仙 台 - 6	- 3
		青 森 - 6	- 1
		札 幌 - 9	- 4
		根 室 -26	-20

